

ソーシャルメディアの特徴を端的に表すなら、「双方向性」「リアルタイム性」「平等性」にある。そして多くのツールが無料である。



と、概要を聞いてもなかなか理解しにくいと思いますので、ソーシャルメディアを分類したこの図を見ながら、走りだけになるとありますが説明にチャレンジしてみたいと思います。まずは、ブログおよびSNS、もうすでにお使いの方も多いかと思いますが、どちらもほぼ同じ性格のもので、SNSではある一定の枠組みが作られていて、誰だかわからない悪意をもってこのような不特定な輩が入りこみにくい設定になっています。これまで、人対人が何かをきっかけとして会うことで繋がってきた社会を、名を名乗らなくてもパソコンを通じて気楽に他人と繋がることが出来ることで爆発的に普及してきました。書き込み部分には、文字はもちろん文字絵や写真、動画あるいは、自分のHPや気に入ったWEBページのアドレスも挿入でき、友だちのページあるいは気に入った日記の書き込みからいろんなところへ飛んで、その興味を満たしてくれます。しかし、基本的に一度に多くの友だち等のブログページを見ることはできないので、1人1人のブログを訪ねる必要があります。次にツイッターについてですが、日本に登場してまだ4年で、すでに国内での利用者が約1000万人と急激に伸びてきているようです。こちら私のツイッターで説明してみます。ツイッターでは一度に140文字しか書き込めないで、このように多くの人のその時の発言が画面を流れていきます。これをタイムラインとって、時間の経過により140文字以内のつぶやきが下方へ流れ消えていきます。ブログにより速いと思ったつながりが、ツイッターによってさらにスピーディーで強い伝播力をもって受け入れられ、その可

能性への期待とともにその利用方法が模索されてきているようです。

次にYoutubeですが、これは誰でも手軽で自由に動画を撮って載せることのできるもので、ブログのように言葉を書き込むわずらわしい手間がいらず、動画によって説明が簡単で表現の幅が広がることから国内で2700万人のユーザーを誇ります。

しかし、更に即時性や双方向性を高めたUSTREAMという動画共有サービスが3年前に出来て、ブログやSNSに対するツイッターとの対比のような進化が窺えるように思います。

USTREAMは、登録して必要な機器を据えるだけで誰でも手軽に生放送で動画を配信することができます。動画視聴者とのチャット機能や、視聴者から投票を受け付ける機能などがあり、ツイッターと同じく双方向性が格段に高まっています。

これら大容量のデータのやり取りと保管を可能にしたのは、クラウドコンピューティングとよばれる特にインターネットをベースとしたコンピュータの利用形態の誕生にあります。

従来のコンピュータ利用は、ユーザー(企業、個人など)がコンピュータのハードウェア、ソフトウェア、データなどを、自分自身で保有・管理していたのに対し、クラウドコンピューティングではユーザーはインターネットの向こう側からサービスを受け、サービス利用料金を払う形になります。

但し、これらソーシャルメディアの利用においては、その費用はそれを運営する会社の負担で賄われており、その原資や利益はユーザーに対するクライアントからの広告収入で賄われています。

最後になりましたが、ロータリークラブについてその活動が一般の人に十分理解してもらえていないことは長年の課題であろうかと思えます。

そうした活動の内容をスピーディーに広く紹介するためには、これまではマスメディアによる広報くらいしか思いあたらず、それには多大な費用を要するため奉仕団体としては、なかなか難しいことでした。

しかし、こうしたソーシャルメディアの誕生は、大企業だけでなくロータリーのような利益を追求しない団体はまた一個人でも、手軽に広く発信できるようになってきました。

こうしたツールを熟知し使いこなすようにしていけば、ロータリーの理解を深めることが出来るはずで、その精神性はより広く世の中に認められるようになるものと信じ、これからもこうした広報のためのツールの活用が進むよう訴えていければと思っています。

新入会員セミナーを開催[会員組織委員会]

本年度の新入会員セミナーが9月6日、常光会員のお寺(覚善寺)で実施されました。講師に藤谷会員を立てたセミナーは、中川会長以下10名の参加がありました。伊藤会員、為石会員、松本会員が対象者でしたが、分かりやすい資料と講義は参加者に好評だったようです。その後の懇親会では全員参加で楽しく盛り上がる事ができました。



2010年 9月9日(木)

第 10号

本日のプログラム	会員卓話
次回例会	9月16日(木) 12:30~ 三次商工会議所
次回プログラム予告	地区大会実行委員会

例会記録・・・9月2日



- 点 鐘・・・・・・中川筆之 会長
- ソング・・・・・・「君が代」「奉仕の理想」
- ビジター・・・・・・村竹 昇様・酒井正治様(三次中央)
- 4つのテスト・・・・松尾 宏会員

会長挨拶 ■中川 筆之 会長



失礼します。一週間のご無沙汰です。先週は夜間例会でしたが半数に近い会員が欠席ということで少し寂しい気がしました。次回はたくさんのお出席を期待します。

さて、暦の上では立秋はおろか処暑も過ぎ、あと一週間で白露ですが現状は連日猛暑が続いております。この暑さはただならぬ異常事態だと思います。太陽の光はまさに肌を刺す痛みです。一昔前まではこんな暑さは無かったと思います。その原因はCO2による地球温暖化と言われていますが、それに加えて私はアスファルト舗装路面の蓄熱効果も大きく影響していると思います。世界中の道路は全てアスファルト舗装です、ものすごい蓄熱量だと思います。太陽が沈んだ夕方の路面は熱くてたまりません。他方私の実家は田んぼの中の一軒やですが、先の盆に墓参りに帰りましたが同じ夕方の時間帯でも全然違います。あんなに熱くありません。

以前この席で話しましたが、地球の気候の変動は一旦動き始めたら止めることは出来ないと言ったと言いましたが、身近で温暖化の防止に役立つことなら是非やりましょう。本日は以上です。

幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

■東城RCより会報
 ■広島東南RCより創立50周年記念誌
 ■広島県立美術館より秋の特別企画展のご案内
 ■次週、11:30より創立50周年実行委員会の開催。例会終了後、理事役員会の開催をします。

出席報告 ■明山 晃映 委員長

8月19日の出席報告					本日（8月5日）の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
42	34	2	6	95.42%	42	30	5	7

Make-up 中川会員（地区指導者育成セミナー）・伊藤会員（福山ローターアクト）

■入会以来連続皆出席 中川筆之会長



SAA報告 ■ 属 吉行 SAA

スマイル21,000円

村竹 昇	本日お世話になります。
増田 茂典	本日は、広報委員会担当ということで村竹アシスタントガバナーのお話の後に少しお話させていただきますのでよろしくお祈いします。
本人誕生月	小田聡之・古永雅則・為石肇
夫人誕生月	山本和彦・増田茂典・為石肇
結婚記念月	野村博之・小田聡之・伊藤将
結婚記念月	佐々木智
入会月	中川筆之・山本和彦・児玉敏宏
創業月	伊藤将

■G12ガバナー補佐



村武 昇 様

みなさん、こんにちは。今日は活動計画ができましたら、地区のほうへ報告とのごことですので参りました。昨日、庄原ロータリーさんのほうへ地区木村代表幹事とともに義捐金使

途について話に参りました。計画では、庄原ロータリーと市で協議の上、災害パトロールの車両を届けるとのごことでした。280万円の車両とのごことです。ガバナー事務所に申請があり整い、次第引き渡し式があると存じます。

本題に入りますが、本年度RI会長の方針・G12地区の絆をもとうということですが、本年度はRI会長の青少年にかかわっていこう・ガバナーの青少年の奉仕を重点におこなってほしいという計画もごさいます。G12も社会奉仕、青少年の問題も取り上げていっていただきたいと存じます。

明年3月27日にはIMが開催されますが、これも青少年の奉仕を重点に企画するよう考えています。

地区目標について、いろいろございますが、財団・米山とさまざまな社会奉仕がありますが、一番の問題は会員数の減ということ。2710地区で37名の減・G12では退会が18名・入会が14名で減が4名です。ガバナーも下げ止まりにして何とか増に持ってゆきたいと

のことです。

G12では10名の増を目標にぜひともご協力をお願いいたします。地区ではなかなか難しいとのごことで、純増3パーセントを目標にされています。

やはり、クラブが気持ちいいクラブとならなければ、すぐに退会となります。入ってあったかいクラブだというクラブでなければと存じます。

他のクラブでの新入会員さんの卓話で、クラブに入って自分の場所があったということを知りました。これはすごいことだと感激いたしました。新人さんが入られて良かったなと思っていただくクラブが良いと存じます。

クラブの中には、キャリアの古い会員さんがおられますが、当然ご苦労下さってクラブを運営してくださったことは感謝・評価することはもちろんです。

しかし、古い会員さんには若い会員さんに温かくご指導いただきたく存じます。増強の前に、このことが各クラブの一番の課題だと思います。

次に、休会の問題ですが会員皆さんで親睦を通し何とか出席の方向へ持って行っていただきたい。

地区大会も迫ってまいりましたが、各種依頼がまだないというご意見があります。遠慮はいりませんので、各委員会でそれぞれご依頼方お願いいたします。皆さんで、ご協力の上地区大会を盛大な大会にお願いいたします。

プログラム

広報委員会



■広報委員長 増田茂典会員

皆さんこんにちは。本日は、広報担当ということで、インターネットを使った広報の可能性を秘めたソーシャルメディアについて話をしたいと思います。これまで浅く広くPRするためには、マスメディアを使って多大な費用を投じてきましたが、費用の割には効果が薄れてきており手軽で安価にできるインターネットを利用したこれらソーシャルメディアには、さらに双方向という新しい可能性も生まれつつあるようです。

新聞、テレビ、雑誌などは一方通行で、それを見ている人々がどう感じたか何を考えているのか図りしれませんが、ユーストリームという手軽に生中継できるツールではツイッターと連動させることができ、セミナーの様子を不特定多数の人に即時に伝え、その様子を見たり聞いたりしながら思ったことを即時に書き込めます。反応の状況がすぐわかるその即時性、双方向性は新たな可能性を見いだすに十分なインパクトがあります。

ソーシャルメディアとは、ツイッターや、ソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)、ブログ、YouTube、

USTREAMなどのことです。そもそもソーシャルメディアとはどんなもので、マスメディアとは何が違うのでしょうか？週刊ダイヤモンド7/17号では、このように解説しています。

ソーシャルメディアは単なる便利なツールではなく、その背景には消費者と企業の情報のやりとりの大きな構造転換がある。企業が大量生産する。そして、テレビや新聞の広告を使って、一方的に消費者に告知する。かつては、まるで川上から川下に流れるかのように、モノも情報も消費者は受け取るしかなかった。

消費者側の不満や苦情は、企業のお客相談センターなどの部署に集まるばかりで、消費者の間で共有されることもなかった。同時に企業側にしても、多種多様に細分化する消費者の志向に合わせた情報発信の方法はないかと模索し始めていた。そこに、インターネットとソーシャルメディアが登場し、大きな変化が訪れた。消費者自身が気軽に、限りなくゼロに近いコストで情報を発信できるようになった。批判や苦情を発信する消費者もいれば、商品やサービスの良さを説き、団結するファンもいる。それがソーシャルメディアなのだ。